



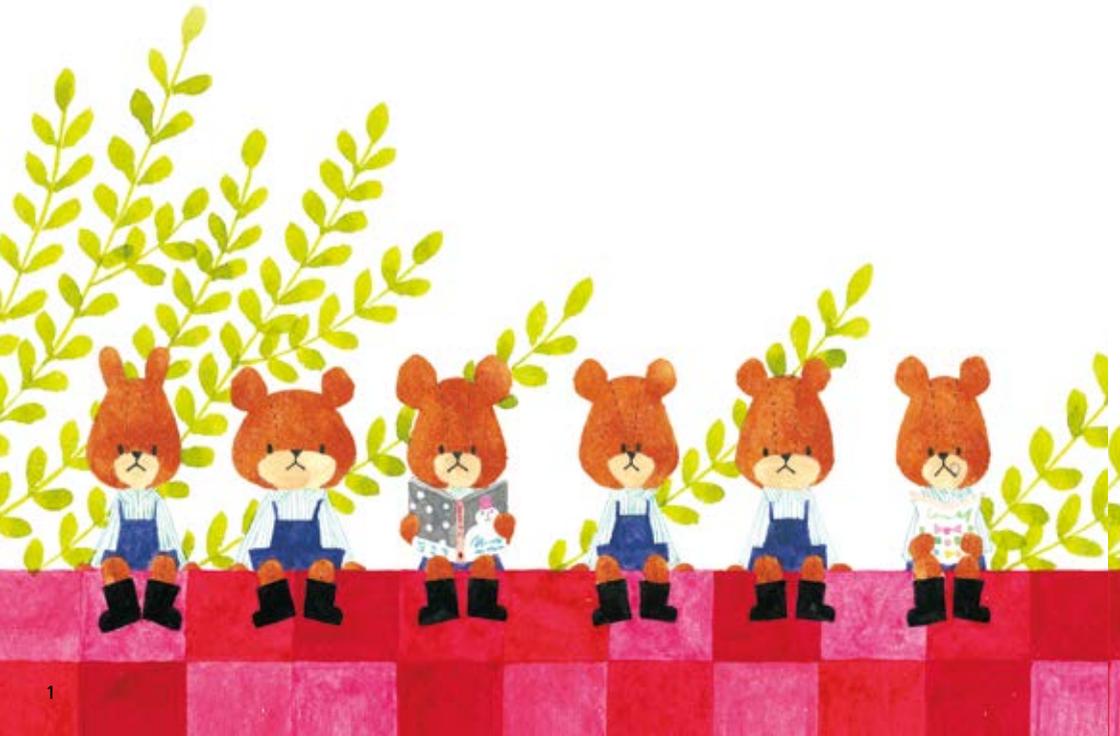
Fun For the Future!

バンダイナムコグループの
CSR活動報告2016

FUN FOR THE FUTURE!

楽しみながら、楽しい未来へ。

エンターテインメントが社会に対してできること、それは、心が心を響かせて楽しい未来をつくることです。バンダイナムコグループは「夢・遊び・感動」をお届けする企業として、地球環境や社会とのかかわりについて、「Fun For the Future! 楽しみながら、楽しい未来へ。」を合言葉に、社会とステークホルダーのよろこびにつながる活動を推進し、楽しい未来づくりに貢献していきたいと思えます。



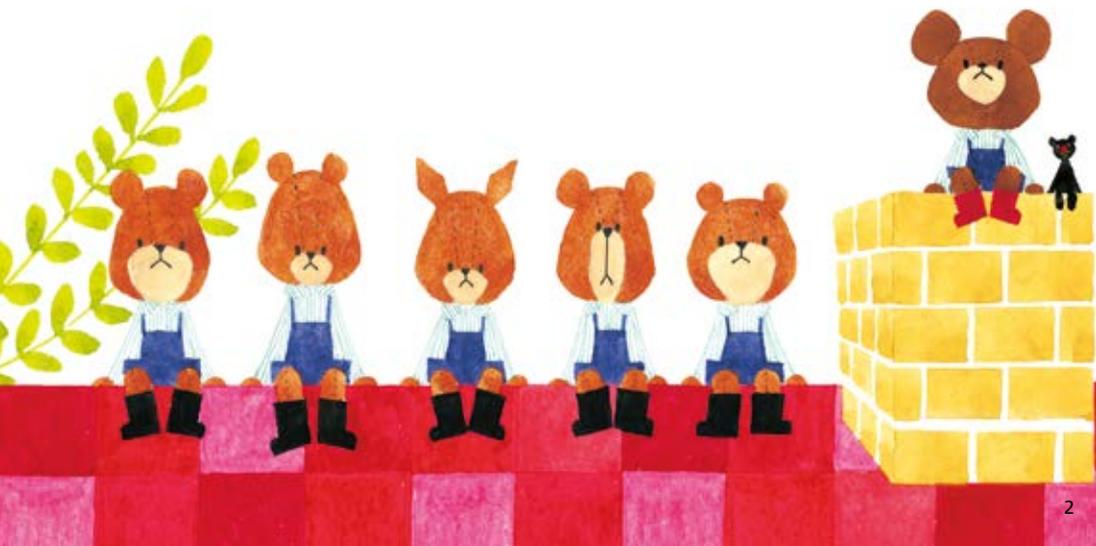
Contents

3 トップメッセージ

5 特集： 多彩な商品・サービスを通じた未来づくり

- ① おもちゃづくりでの取り組み
- ② 新しい遊び場づくりでの取り組み
- ③ 映像・音楽コンテンツづくりでの取り組み

- 20 バンダイナムコグループの被災地支援活動
「こどもエコクラブ」と連携した環境活動
- 21 バンダイナムコグループのCSRマネジメント
- 23 各SBUの重点取り組みテーマ
2015年度進捗報告
- 31 環境関連情報
- 33 人事関連情報
- 35 コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス
- 37 リスクマネジメントと情報開示
- 39 グループ組織体制
- 40 財務・業績ハイライト
- 41 会社情報ほか
- 42 CSR活動報告2016 WEB版のご案内



「夢・遊び・感動」を
お届けする使命に誇りと
責任を持ち、「楽しみながら、
楽しい未来」をつくる活動に
取り組んでいきます。



株式会社バンダイナムコホールディングス
代表取締役会長
石川 祝男



「夢・遊び・感動」を提供することをミッションとするバンダイナムコグループでは、「Fun For the Future! 楽しみながら、楽しい未来へ。」を合言葉にCSR活動を行っています。同時に地球環境や社会とのかかわりにおいて、バンダイナムコグループらしさを活かしたさまざまな活動を推進することで、このコンセプトを広くアピールしています。

また、事業面においては、バンダイナムコグループ最大の強みである「IP軸戦略」により、IP*の持つ魅力を最大限に引き出しながら、多彩な事業領域で商品・サービスを展開しています。

今回のCSR活動報告では、それぞれの事業領域の特性を活かした取り組み事例を、商品・サービスができるまでの過程をたどりながらご紹介していきますので、ぜひ一読ください。

今後もバンダイナムコグループは、「夢・遊び・感動」をお届けする使命に誇りと責任を持ち、「楽しみながら、楽しい未来」をつくる活動に取り組んでまいります。

* IP : Intellectual Property の略で、キャラクターなどの知的財産のことを指します。



株式会社バンダイナムコホールディングス
代表取締役社長
田口 三昭

多彩な商品・サービスを通じた未来づくり

バンダイナムコグループでは、「IP 軸戦略」のもとエンターテインメントにかかわる多彩な商品・サービスを幅広くお客様に提供しています。

本特集では、バンダイナムコグループを構成する3つの戦略ビジネスユニット(SBU : Strategic Business Units) が、それぞれの商品・サービスをお客様のお手元に届ける過程で実施している、楽しい未来づくりのための取り組みを具体的な事例とともにご紹介します。

グループ組織体制



トイホビー SBU

ネットワークエンターテインメント SBU

映像音楽プロデュース SBU

関連事業会社

1 おもちゃづくりでの取り組み

P7

トイホビー SBU

2 新しい遊び場づくりでの取り組み

P13

ネットワークエンターテインメント SBU

3 映像・音楽コンテンツづくりでの取り組み

P17

映像音楽プロデュース SBU



有力なIP
(コンテンツ)

「IP 軸戦略」とは

幅広い事業領域を活かし、最適なタイミングで、最適な地域へ、最適な商品・サービスとして提供していくことで、IPの価値最大化を図る、バンダイナムコグループ最大の強みです。



有力IPの
価値を最大化

NEW
DEVICES

VIDEO ON
DEMAND (VOD)
CONTENT



LIVE
ENTERTAINMENT



HOME
VIDEO GAME
SOFTWARE



PLASTIC
MODELS



CAPSULE
TOYS



CARDS



NETWORK
CONTENT



VISUAL
PACKAGE
SOFTWARE



TOYS



MOVIES



ARCADE
GAME
MACHINES



APPAREL



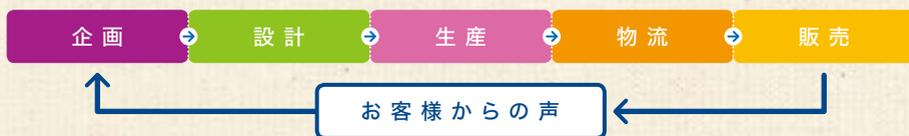
注：この概念図は、IP軸展開の一例です。

1 おもちゃづくりでの取り組み

トイホビー SBUでは、玩具をはじめ、菓子・食品、自動販売機用商品、カード、模型、アパレル、生活用品、文具など、多彩な商品・サービスを展開しています。

ここでは、商品企画からお客様のお手元に商品が届いたあとに至るまでの、さまざまな段階におけるCSRの取り組みを、事例とともにご紹介します。

おもちゃづくりの流れ



VOICE 担当者の声

お客様の笑顔のために、信頼と満足を提供していきたい。

トイホビー SBUでは、事業分野の特性を踏まえ、未来ある子どもたちに向けた持続性の高い活動に努めています。

商品・サービスを提供する大前提として、「安全で安心できる商品づくりに徹し、世界中のお客様から信頼と満足を得られる商品を提供すること」を方針に掲げ、品質の維持・向上に取り組んでいます。該当する法規制や業界などが定める品質・安全基準を踏まえた、より厳しい自社基準のもと、新商品がそれらの基準を満たしているかどうか厳格な検査を行っています。また、商品・サービスごとに、さまざまな使われ方やニーズを幅広く想定し、企画段階から安全で安心なものづくりに取り組んでいます。このほか、次世代を担う子どもたちの「笑顔のためにできる

こと」を合言葉に、環境活動の推進や情報発信にも積極的に取り組んでいます。

今後も、安全面・環境面における管理体制の充実はもちろん、「お客様の笑顔は私が守る!」という強い信念を持ち、お客様から信頼と満足を得られるように努めてまいります。

株式会社バンダイ
プロダクトマネジメント部
品質マネジメントチーム

大蔦 卓也





商品企画段階から環境・UDに配慮

トイホビー SBUでは、商品の安全性や環境配慮設計、資源リサイクル、UD（ユニバーサルデザイン）などに関する会議やイベント・講演会を定期的に行い、企画担当者の意識向上に努めています。こうした取り組みを通してさまざまなアイデアが生まれ、商品企画に活かされています。

環境に配慮したおもちゃの企画事例

● ブロックラボ

おおきなバイキンじょうとだだんだんブロックパケツ

ブロックが入っているパケツに丈夫な素材を用い、おかたづけ箱として長く使用できるようにし、外箱がごみにならない商品企画を立案しました。



● ビッグサイズ

なりきりジュウオウジャー

外箱をなくし、商品包装を最小限にすることで、1商品あたり約23gの紙を削減しました。

従来の箱入り商品



本商品



UDを導入したおもちゃの企画事例

● 仮面ライダーゴースト

変身ベルト DXゴーストドライバー

背中でサイズを合わせるタイプのベルトは、小さなお子様が一人で装着できない場合が多いため、本商品では、一度サイズを合わせれば2回目以降は手前で簡単に装着できるようにしました。



● かみさまみならい ヒミツのここたま

味つけ広がる!生マシュマロメーカー

商品にネジやビスを使用せず、どなたでも簡単に分解して洗うことができる機構を商品企画に取り入れられました。



廃棄物を最小限に抑える工夫

商品本体やパッケージの設計段階では、プラスチックごみを最小限に抑える配慮や、紙資源の節約につながる努力を行っています。

プラスチックごみの削減への工夫事例

● 超次元変形フレームロボ

通常プラモデルのパーツは、プラスチックのフレーム（ランナー）からパーツを切り取って組み立てるため、必要なパーツを切り取ったあとのランナーはごみとなってしまいます。

この課題に取り組むため、本商品は、平面に配置されたパーツを、ランナーごと折り紙のように折りたたんで組み立てられる仕様になりました。ランナーを含めたすべてのパーツが、ロボットを組み立てるために必要な部材となるため、不用なごみが出ない設計となっています。



紙資源の節約への工夫事例

● ミニプラ動物合体シリーズ01
ジュウオウキング

組み立てや取り扱いの説明を、パッケージの内側に印刷することで、商品に使う紙を節約しています。



PICK UP!

「エコメダル」認定制度

トイホビー SBUでは、環境配慮について所定の社内基準を満たした商品を、「エコメダル」商品として認定しています。「過剰包装の禁止」を必須項目とし、商品を構成する3つの要素である「商品本体」、「容器包装」、「取扱説明書等」のカテゴリについて評価をしています。2016年3月末までに約60の商品を「エコメダル」商品として認定しており、「エコメダル」に認定された商品には、パッケージにラベルを付け、環境配慮商品であることをわかりやすく表示しています。



パッケージ表示の一例



生産

品質の維持・向上のために

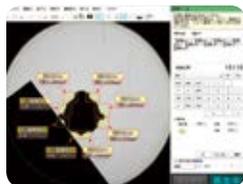
業界基準はもちろん、より厳格な社内基準に基づく品質検査を行っているほか、協力メーカーや生産工場などサプライヤーと一体となり、品質の維持・向上に取り組んでいます。

品質検査例

小さな部品を万が一お客様が誤飲した場合でも、気道を確保できるように、部品の形状や寸法を最新鋭の機器を用いて測定し、商品に反映しています。



測定器に商品を設置



投影・測定

万が一の誤飲発生時に必要な空気流量を確保するため、測定結果を商品形状に反映



投影図が円形の場合、直径3mm以上の穴をあける。



突起などがある場合、直径3mmの円の面積(7.065mm²)相当の通気部を周囲に設ける。
※斜線部が通気部

サプライヤーと一体となった取り組み例

評価指標に対して高いレベルを維持しているサプライヤーを表彰する「バンダイサプライヤーアワード」を設定し、取引先と一丸となって労働環境や品質面の向上に努めています。表彰されたサプライヤーには、現場での取り組みについて他サプライヤーへ講演を行っていただき、ノウハウを共有しています。

評価指標例

- ・ BANDAI Factory Audit (BFA)の
 監査項目に対する適合度 (BFAについてはP.30参照)
- ・ 品質基準に対する不合格率
- ・ 重欠点 (商品の性能を低下させるような欠点)の混入率
- ・ 商品に対するお客様からの苦情率 など



安全と環境に配慮して商品を配送

トイホビー SBUの物流を担うグループ会社の(株)バンダイロジカルと(株)ロジカルエクスプレスでは、「人と地球にやさしい物流」を目指し、安全や環境に配慮した取り組みを行っています。

ドライバーの育成

社内のドライバー研修では、インストラクターによるエコドライブ運転の指導を行い、地球環境にやさしい運転技術の向上に努めています。また、自社主催のドライバーコンテストでは、安全運転やエコドライブ等の審査項目を設け、全社的に安全・環境の取り組みを推進しています。



交通安全の啓発活動

トラックを配置している事業所では、地区の交通安全協会の活動に賛同し、交通安全活動の一助になるよう寄付を継続して行っています。また、春・秋の交通安全週間には所轄警察署や安全協会等と街頭活動を行い、交通安全の啓発に努めています。

低公害車の導入

各拠点での運行状況や車両を動かすためのインフラを考慮し、順次、各種低公害車への切り替えを行っています。首都圏近郊の配送をしている3トン車1両が廃食用油100%のバイオディーゼル燃料を使用しているほか、敷地内に軽油タンクを設置している営業所では2013年度よりB5軽油(バイオディーゼル燃料を5%混合した軽油)を導入するなど、環境負荷軽減に努めています。

・低公害車導入実績

	台数	比率
CNG車	12	9.4%
ハイブリッド車	1	0.8%
新長期規制適合車	33	25.8%
ポスト新長期規制適合車	30	23.4%
合計	76	59.4%

参考：全車両台数 128





販売

おもちゃをお届けしたあとも取り組みを継続

お客様に商品をお届けしたあとも、商品を安全に使用していただくための取り組みを行っています。

お客様の声に耳を傾け、次のモノづくりに活かす

お客様相談センターへ寄せられたお客様からの声やインターネット上の情報等をテキストマイニングツール*で分析し、商品の不具合の発見や事故・誤使用の防止につなげています。なお、情報は、商品担当部門にフィードバックを行い、今後の商品開発の改善につなげています。

*インターネット上の情報を集約して分析し、可視化するためのツール。情報は個人が特定されない形で集約されます。



情報は翌日までに
商品担当部門にフィードバック



子どもたちとともに「楽しみながら、楽しい未来へ。」

次世代教育の一環として、子どもたちにとって身近な存在である「おもちゃ」を題材に、地球環境やUD、安全・安心について、小学校を中心に社員が授業を行う「出前授業」を行っています。なお、「出前授業」のプログラムの一つとして実施している、おもちゃを安全に使用するための「製品安全教育」は、経済産業省のモデル事業としてとりあげられました。このほか、小学校を対象とした授業キットの無償配布もスタートしています。



製品安全教育



環境教育



UD教育





2 新しい遊び場づくりでの取り組み

ネットワークエンターテインメントSBUでは、ネットワークコンテンツの企画・開発・配信、家庭用ゲームソフト、業務用ゲーム機、景品等の企画・開発・販売、およびアミューズメント施設などの企画・運営を行っています。

ここでは、ネットワークエンターテインメントSBUから生まれた新たな遊び場「屋内砂浜 海の子」ができるまでを特集します。

「屋内砂浜 海の子」ができるまでの流れ

プロデュース～企画・開発

設計・点検

運営

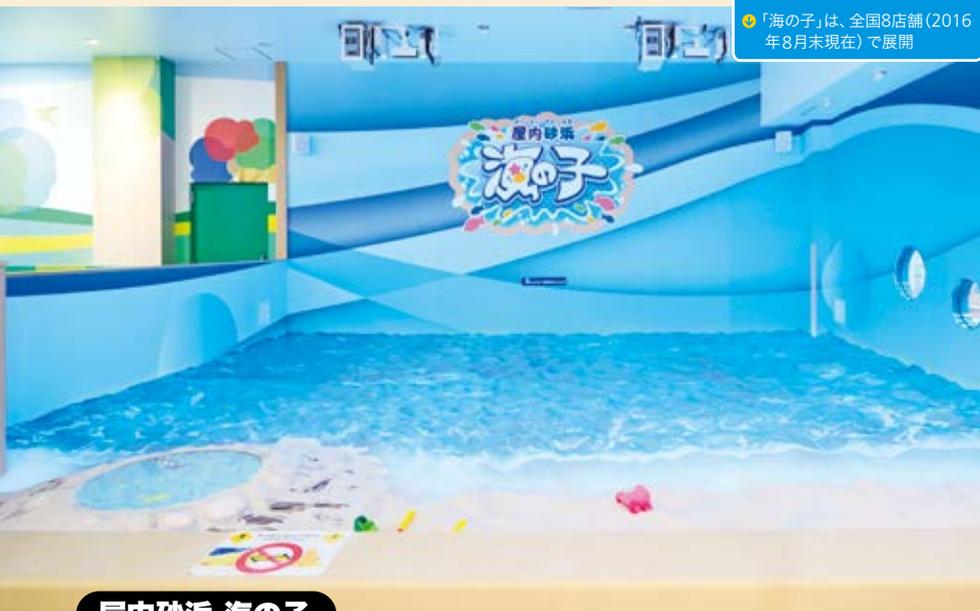
(株)バンダイナムコエンターテインメント：プロデュース

(株)バンダイナムコスタジオ：企画・開発

(株)ナムコ：施設運営



- ① 「屋内砂浜 海の子」が設置されているファミリー向け屋内複合施設「ナムコ・AsoMIXららぽーと海老名店」（神奈川県）
- ② 「海の子」は、全国8店舗（2016年8月末現在）で展開



屋内砂浜 海の子

「屋内砂浜 海の子」は、一面に敷き詰められた砂場に、南国のきれいなビーチを映像と立体音響で再現した海遊びパークです。この新しい遊び場におけるCSRの取り組みを、担当者の声とともにご紹介します。

最新のデジタル技術と砂場の融合で、 室内にいながら水のない海遊びを実現

「屋内砂浜 海の子」は、屋内砂場にプロジェクションマッピングで海を表現する、というアイデアから誕生しました。現実に関わりなく近い体験を提供することで、実際の海ではどのようなことが起こりうるのか、子どもたちが遊びを通して学ぶことができます。例えば人が近づくと魚が逃げるような挙動をとったり、時間によって潮位が変化したり、南の島の環境音を収録し使用するなど、本物の海に近づけることに徹底的にこだわりました。

一方、ユーザビリティを意識し、現実とはあえて異なる表現も取り入れました。例えば「海の

子」では、映像で投影された魚を、すくいを使って捕まえる遊びも提供していますが、映像のみでは、魚を捕まえたときの手応えを感じていただくことができません。そこで、魚を捕まえた瞬間に“ゲット!”という言葉を表示させ、子どもたちに直感的に伝わる工夫もしています。

また、本物の海遊びは、場所によっては危険な足場があり、天候等にも影響を受けることがあります。屋内の安全な空間にコーナーを設置することで、誰でも気軽に海遊びを疑似体験することが可能となりました。



VOICE 担当者の声

濱野 孝正

株式会社バンダイナムコエンターテインメント
AM事業部 企画開発1部 プロデュース1課

オープンに立ち会ったとき、室内に海が登場したことでお客様から大きな歓声が上がりました。お客様のニーズや遊びの楽しさにとことんこだわったことで、感動を届けることができ、本当に嬉しく思います。今後も、こうした最新技術を日常の遊びに取り入れ、夢のある新しい遊びを生み出していきたいと思っています。



設計・点検

親子で安全・安心に遊んでもらえる工夫や取り組みを随所に

ナムコでは、アミューズメント施設の設計段階から、安全・安心の観点で子どもたちのケガを未然に防ぐ環境づくりに取り組んでいます。

「海の子」においても、従来のアミューズメント施設で実施しているように、柱の角を丸くする、クッション・マットなどの保護材を床やステップに敷く、といった工夫を随所に取り入れていきます。また、子どもたちを見失わないように、施設内の見通しの良さに配慮した空間づくりにもこだわりました。砂払いのステップの色も照明の色と同化しないように、白ではなくベージュにするなど、細部にわたり、安全・安心な遊び場をつくり上げました。

専用の“砂”は、有機物をほとんど含んでおらず、雑菌などが増殖しにくく、抗菌性に優れているものを導入しました。また、砂場は子どもたちが裸足で入るため、砂の中に釘やビスなどの異物や不純物が入らないよう施工の段階から厳重に管理を行いました。オープン後は、施設の営業時間終了後に毎日2時間をかけて、すべての砂をフルイにかけているほか、定期的にエアーカルキやアルコール消毒剤を散布しています。エアーカルキは、除菌効果だけでなく、消臭効果も併せ持ちます。歯科医療の口腔洗浄や食品添加物にも使用される素材でつくられていることから、安全・安心な除菌消臭が可能となっています。



VOICE 担当者の声



高橋 信俊

株式会社ナムコ

企画開発本部 エンターテインメント施設開発部 企画開発チーム

子どもたちが夢中になって「海の子」で遊んでくれている姿を見て、とても感動しました。ご来場いただくお客様が、危険を感じることなく遊びに没入できるようにすることが、アミューズメント施設づくりにおいて最も重要な要素の一つだと考えています。今後も新しい遊びの提案と細心の配慮を継続し、ますますお客様を夢中にさせられるようなアミューズメント施設づくりに取り組んでいきたいと思っております。

運営

何よりも安全・安心を意識し、 お客様に楽しんでいただきたい

施設の安全・安心を維持し、お客様に快適に楽しんでいただくためにも、運営スタッフの教育に力を注いでいます。「海の子」が設置されている、AsoMIXららぽーと海老名店には小さな子どもたちが訪れるため、スタッフの多くが「キッズコーチ検定^{*}」を取得しており、子どもたちとのコミュニケーションスキルの向上に努めています。また、アミューズメント施設は青少年と接する機会が多い場所であり、地域社会とのより良好なつながりと健全な青少年育成活動を進めるため、ナムコではスタッフの「AOU 青少年アドバイザー^{**}」の

資格取得を推進しています。2015年度にはアミューズメント施設配属の社員213名が資格を取得しており、AsoMIXららぽーと海老名店のストアマネージャーも取得しています。

こうした資格取得により、スタッフが接客対応に自信を持って取り組むことができ、子どもたちと楽しく適切に触れ合いながら、安全・安心な施設運営にあたっています。

- * 一般社団法人キッズコーチ協会が実施する、実践的な子どもとのコミュニケーションスキルなどを習得する資格
- ** 一般社団法人全日本アミューズメント施設営業者協会連合会 (AOU) が実施する資格



VOICE 担当者の声

鈴木 麻緒

株式会社ナムコ AM施設営業本部 AM営業部
AsoMIXららぽーと海老名店 ストアマネージャー

ご来場されるお客様に心から楽しんでいただきたいという想いで、接客対応にあたっています。そのために、安全面の確保はもちろん、スタッフ自らが子どもたちに恥ずかしくない行動がとれるよう強く意識しています。多くのお客様に安心してご来場いただける、よりいっそう楽しい「海の子」を目指していきたいと思います。



3 映像・音楽コンテンツづくりでの取り組み

映像音楽プロデュースSBUでは、アニメーションをはじめとする映像コンテンツの企画・制作や、Blu-ray・DVD・CDなどの映像・音楽パッケージの製作・販売、オンデマンド映像の配信、ライブエンターテインメント事業などを展開しています。

ここでは、映像コンテンツやライブ・イベントが生まれる過程におけるCSRの取り組みをご紹介します。

映像・音楽コンテンツづくりの流れ



VOICE 担当者の声

体験や感動の力を信じ、私たちならではの活動を推進します。

映像音楽プロデュースSBUは、「映像音楽を中心としたIPプロデュースを通じて世界の人々の心を豊かにする。」をミッションに掲げ、その実現のための共通課題として「良質なIPの創出育成」に取り組んでいます。「良質なIP」には、「おもしろい」「感動する」「ヒットする」などさまざまな意味が含まれますが、「CSRの推進」もその一つだと考えています。

映像音楽プロデュースSBUでは、適切な表現への配慮、業界基準の遵守に加え、より厳格な社内基準による品質管理、積極的に環境配慮に取り組んでいる工場への製造委託や、視覚・聴覚障がいのある方でも楽しめるコンテンツづくりへの挑戦など、組織的な取り組みを強化しています。

また、ライブ・イベントにおいても、環境に配慮した活動に取り組んでいます。

IPと、その出口であるパッケージソフトやライブ・イベントがもたらす体験や感動の力を信じ、今後も私たちならではの活動を積極的に推進していきます。

バンダイビジュアル株式会社
人事・総務部 CSR担当

西村 直樹





映像コンテンツ制作における適切な表現の統制

表現のチェックでは、差別用語や、不適切な用語・表現がないかを確認しています。表現は、視聴者が置かれている環境や時代によって変化するため、企画からパッケージ販売に至るまで、さまざまな過程で多重チェックを実施しています。

前提としている取り組み

全社員を対象に、人権や著作権への配慮といった倫理表現に関する社内研修を毎年実施


企画・制作

↓


上映/
放送/配信

↓


パッケージ化

↓


パッケージ
発売

◇ プロデューサー・製作委員会による表現チェック

◇ 映画館で上映する作品については、映画倫理委員会（映倫）による外部審査を実施

（映倫）作品を主題・題材とその表現の仕方に応じ、年齢別に4段階に区分



どなたでも
ご覧になれます



小学生には
助言・指導が必要



15歳以上が
ご覧になれます



18歳以上が
ご覧になれます

◎ パッケージ化を行う段階で表現チェック

出演者による副音声特典や特典映像など、本編にはなかったパッケージ商品ならではの特典等について表現に問題がないかをチェックします。

◎ ユニバーサルデザインへの対応

視覚障がいや聴覚障がいのある方にも楽しみいただけるよう、音声ガイド（音声による解説）や、台詞の発音者や環境音がわかるような字幕の収録などの取り組みを実施しています。

2015年度実績 ……………

視覚障がい者対応

日本語音声ガイド収録：

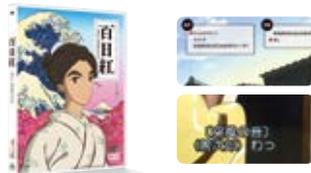
1タイトル

聴覚障がい者対応

日本語字幕収録：

6タイトル

視覚障がい・聴覚障がい者に対応した パッケージ商品例「百日紅～Miss HOKUSAI～」



◎ パッケージが完成した段階で最終チェック

ライブ・イベントでの環境配慮

ライブ・イベントの企画・制作においては、照明にLEDを積極的に利用し、省エネを図っているほか、舞台道具を再利用することで木材などの自然材料の削減に努めています。

「Kiramune Music Festival 2015」

(2015年5月9日・10日公演)

環境に配慮したライブ・イベントを開催



ライブ・イベントを通じた社会貢献活動

地域の活性化を目的としたアニメイベントや、チャリティコンサートの開催など、映像・音楽制作やライブ・イベント関連の事業に携わる企業ならではの活動として、さまざまな社会貢献を行っています。



『第19回 大洗あんこう祭』内での 「ガールズ&パンツァー」のキャストトークショー

(2015年11月15日開催、大洗マリンタワー前芝生広場)

バンダイビジュアル(株)がプロデュースを行うアニメ「ガールズ&パンツァー」の舞台となっている茨城県東茨城郡大洗町の地域イベントでは、出演キャストによるトークショーや関連グッズの販売などを通して、集客に貢献しました。

「チャリティコンサート“夢”2015」

(2015年12月12日、柏市民文化会館)

障がいのある方でも参加しやすいイベントを目指して、9回目の開催を迎えたチャリティコンサート。(株)ハイウェイスター所属のアーティストらが参加しています。





バンダイナムコグループの被災地支援活動

バンダイナムコグループでは、東日本大震災被災地の子どもたちに向け、継続的な支援活動を行っています。



+ 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (SCJ) と連携した活動

バンダイナムコグループでは、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (SCJ) とのパートナーシップのもと、株主優待で寄付をご選択いただいた株主様とともに、合計1,000万円をSCJに寄付しました。寄付金は、東日本大震災の被災地支援のための活動資金として、子どもたちの今と明るい未来づくりに使用されます。

また、継続したワークショップ活動も行っており、2015年度は、宮城県名取市、福島県郡山市・会津若松市、岩手県山田町で、約200名の子どもたちと工作教室やダンスなどを行いました。

宮城県名取市「プラモデル教室」



福島県会津若松市
「ジャッキーのハロウィンリースづくり」



岩手県山田町「ジャッキーとダンス」



「こどもエコクラブ」と連携した環境活動



バンダイナムコグループは、2015年度より子どもたちが自主的に環境活動や環境学習を行う「こどもエコクラブ」*のパートナーとなり、各種活動への協賛を行っています。また、環境学習の場としてグループ社員とその家族も活動に参加しています。

*こどもエコクラブとは…

公益社団法人日本環境協会が、環境省の後援および文部科学省の支援のもと、地方自治体や企業・団体と連携を図りながら、子どもたちの環境活動を支援する事業で、全国約2,000クラブ、約12万人が会員となっています。(2016年3月現在)

「こどもエコクラブ」への社員参加活動例：

2015年度は、山梨県中央市にて行われた田植え体験、茨城県水戸市にて行われたサケの卵を保護する「サケレンジャー」活動にグループ社員とその家族が参加しました。

田植え
体験

(2015年6月)



主催：こどもエコクラブ登録クラブ
「いきものみっけファーム」

サケレン
ジャー活動

(2015年11月)



主催：こどもエコクラブ登録クラブ
「逆川こどもエコクラブ」

バンダイナムコグループのCSRマネジメント

バンダイナムコグループでは、特に重点的に取り組む必要があるテーマを「バンダイナムコグループのCSR重要項目」とし、さらにSBU（戦略ビジネスユニット）の活動レベルに落とし込んだ「CSR重点取り組みテーマ」を策定して、各事業特性を活かした活動を行っています。

→ 各SBUにおける重点取り組みテーマの詳細は23ページ以降をご覧ください。

バンダイナムコグループのCSR方針

ミッション

“Dreams, Fun and Inspiration”
「夢・遊び・感動」

CSRコンセプト

Fun For the Future!

楽しみながら、楽しい未来へ。

CSRへの取り組み

- ① 環境・社会貢献的責任
- ② 経済的責任
- ③ 法的・倫理的責任

コンプライアンス憲章

「適正な商品サービス・公正な取引、社員尊重、情報開示、知的財産の尊重・活用、情報・財産の保全、反社会的勢力の拒絶、環境との調和、社会との調和」に関する原則。

バンダイナムコグループCSR重要項目

- ① 商品・サービスの安全と衛生
- ② 環境配慮
- ③ コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー
- ④ サプライチェーン管理

各SBU・関連事業会社で、重点取り組みテーマを掲げ、事業を通してグループCSR重要項目の深掘りを行う。

バンダイナムコグループのCSR推進体制

バンダイナムコホールディングスおよび各SBU主幹会社の社長とCSR担当役員らでグループCSR委員会を構成し、スピード感を持って決断することで、事業と一体となるCSR体制を推進しています。

CSRに関する事項の決議・報告

バンダイナムコホールディングス 取締役会 (適宜)

報告事項・検討事項

グループCSR委員会 (半期)

グループCSR部会 (四半期)

各SBUのCSRプロジェクト

グループリスクコンプライアンス委員会 (適宜)

バンダイナムコグループのCSR重要項目

①

商品・サービスの安全と衛生

私たちがお届けする「夢・遊び・感動」の基盤となる商品・サービスの安全と衛生の向上について、最優先に努めています。

②

環境配慮

「夢・遊び・感動」を次の時代につなげるために、地球環境に配慮し、企業活動におけるエネルギー削減や商品・サービスにおける省資源化に努めています。

③

コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー

世界中の人々へ「夢・遊び・感動」をお届けするため、「表現の自由」の尊重とともに、多様なコンテンツや商品を適切にお客様にお届けするよう努めています。

④

サプライチェーン管理

私たちがお届けする「夢・遊び・感動」の質的向上のために、それぞれの事業に対応したサプライチェーンの管理向上に努めています。

各SBUの重点取り組みテーマ 2015年度進捗報告

CSR重要項目 ① 商品・サービスの安全と衛生

SBU	重点取り組みテーマ	進捗状況	2015年度活動報告
トイホビー SBU	安全・安心への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> + SBU横断のグループ情報交換会を毎月実施し、情報共有により全体の取り組み向上を図る。 + プロダクトセーフティフォーラムとして、製品安全を考える展示会と製品事故対応研修を実施。 + オンデマンド配信とワークショップを組み合わせた、協力メーカーとの勉強会を6回開催。 + ハンダイ品質基準の見直しを適時実施し、改訂を年2回実施。 + 玩具安全基準 (ST2012) の改訂も取り入れ、品質基準審議会を11回開催。
ネットワークエンターテインメント SBU (コンテンツ)	安全・安心なモノづくりの推進		<ul style="list-style-type: none"> + 不具合事例や最新法規制等の情報共有を目的に「製品安全と品質向上を考える展示会」を開催。あわせて社内外講師による品質関連セミナーを実施。 + 欧州をはじめとした国内外の化学物質関連法規制の厳格化に伴い、BNEグリーン調達基準を見直し、改訂を年1回実施。 + 製品の安全性、耐久性等を定めた品質基準の見直しを適時実施し、改訂を年2回実施。 + 業務用ゲーム機の安全性確保を目的に、試作機を対象としたSR (セーフティレビュー) や事前テスト設置等による製品検証を実施。

CSR重要項目 ① 商品・サービスの安全と衛生

SBU	重点取り組みテーマ	進捗状況	2015年度活動報告
ネットワークエンターテインメントSBU (アミューズメント施設)	安全・安心な施設づくり		<ul style="list-style-type: none"> + 「AOU 青少年アドバイザー」資格取得促進。 ⇒アミューズメント施設配属社員総数272名中213名が取得 取得率：78% (取得率目標80%) + 「サービス接客検定」資格取得推進。 ⇒店舗配属社員取得率：87% (取得目標率95%) + 施設の安全性に関する点検を実施。 ⇒店舗安全点検を年2回実施 ⇒電気設備点検評価を計12店舗にて実施 + 食品衛生に関するマニュアル等を見直し。 ⇒販売食品マニュアルを年1回改訂 ⇒衛生ハンドブックを年1回改訂
映像音楽プロデュースSBU	商品の安全基準の取り込み		<ul style="list-style-type: none"> + 商品表示マニュアルを更新。 + イベント危機管理マニュアルを作成。 + 新作パッケージについて製造工程の立ち会いを毎月実施。
関連事業会社 (ハンダイロジバル・ロジバルエクスプレス)	安全運転により車両事故を抑制し、貨物を遅滞なく届ける		<ul style="list-style-type: none"> + ドライバー研修を年5回実施。 + 点呼時の安全指導。 + ドライブレコーダーを全車に装着。 + 安全性優良事業所 (Gマーク) の維持。
関連事業会社 (アートプレスト)	生産・材料における安全・安心の製品提供		<ul style="list-style-type: none"> + 生産工程をフローチャートで管理。 + 生産工程上の品質管理を強化することを目的に、品質検査方法を精査し、不足部分について生産工場に指導を実施。 + 既存の使用資材および生産機械のデータベース化を完了。 + 新規資材について、企画段階および試作サンプル段階で検査を二重に行い、安全性の確認を徹底。

TOPICS ① 商品・サービスの安全と衛生

商品・サービスの安全・安心に関する展示会を開催

トイホビー SBU、ネットワークエンターテインメント SBUでは、より安全・安心な商品をお客様にお届けするため、グループ各社の社員を対象に、過去の製品不具合の発生事例やお客様の声に関する社内展示会や研修を行い、さまざまな情報を共有しました。



バンダイが「製品安全対策優良企業表彰 大企業製造事業者・輸入事業者部門」のゴールド企業に認定

経済産業省主催「製品安全対策優良企業表彰」の「大企業製造事業者・輸入事業者部門」において、バンダイが2008年度に「金賞」、2012年度・2015年度に「経済産業大臣賞」を受賞しました。これを受け、「大企業製造事業者・輸入事業者部門」で初となる「製品安全対策ゴールド企業」に認定されました。なお、バンダイナムコエンターテインメントも、2014年度にアミューズメント業界として初の「優良賞」を受賞しています。



namco梅田店が「大阪府青少年健全育成優良店表彰」を受賞

大阪府が、青少年にとって良好な社会環境づくりを進めるため、他の模範となる優れた活動を日常的に行っている営業所を表彰する「2015年度 大阪府青少年健全育成優良店表彰」において、ナムコが運営するnamco梅田店が2006年度に続き、2度目の受賞を果たしました。



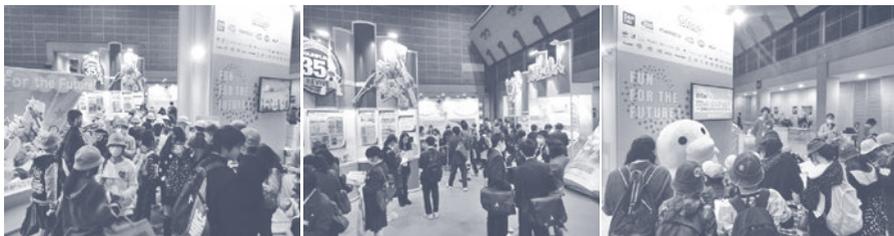
CSR 重要項目 ② 環境配慮

SBU	重点取り組みテーマ	進捗状況	2015年度活動報告
トイホビー SBU	Act. Now For Future Smiles 笑顔のためにできること		<ul style="list-style-type: none"> + 環境配慮設計、資源リサイクル、ユニバーサルデザインに関する分科会を隔月開催し、ワークショップや体験会を実施。 + 環境広報を充実（イベント出展、小学校出前授業、Facebookでの情報発信など）。 + 環境配慮設計の実例を分科会で収集、ガイドラインを刷新し、「エコメダル」を制定。
ネットワークエンターテインメント SBU (コンテンツ)	環境配慮設計および環境啓発活動の推進		<ul style="list-style-type: none"> + 環境配慮設計「エコアミューズメント」を積極的に推進。 ⇒ 認定製品が累計32機種に増加 + 廃棄製品のマテリアルリサイクルを実施。 + メールマガジンや社内掲示等を通じて社員向け環境教育を推進。 + 環境広報を充実（イベント出展、WEBサイトの拡充等）。
ネットワークエンターテインメント SBU (アミューズメント施設)	省エネ施策		<ul style="list-style-type: none"> + 新規に導入した照明設備にLEDを積極採用。 + 使用電力量の見える化、COOLBIZ、WARM-BIZ、NO残業DAYの実施により社員の環境意識を啓発。
映像音楽プロデュースSBU	環境配慮の実施		<ul style="list-style-type: none"> + 仕掛品および商品在庫の余剰分について、リサイクル処分を実施。
関連事業会社 (ハンダイロジナル・ロジナルエクスプレス)	車両より排出するCO ₂ の抑制と事業所の節電によるCO ₂ 排出の抑制		<ul style="list-style-type: none"> + 車両代替時の低公害車の導入。 + エコドライブ活動継続による平均燃費の維持。 ⇒ 5.3km/Lの維持 + 事務所・倉庫の不要照明消灯による節電継続。

TOPICS ② 環境配慮

「エコプロダクツ2015」に出展

日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2015」にバンダイナムコブースを出展し、「くまのがっこう」、「ガンブラ」、「太鼓の達人」の3つのIPを軸に、パネルや商品展示、ステージイベントなどを通して、バンダイナムコグループのCSR活動を紹介しました。



環境配慮設計「エコアミュージメント」

バンダイナムコエンターテインメントは、国内で販売する業務用ゲーム機を対象とした「環境配慮設計ガイドライン」を設け、一定レベルをクリアした製品を「エコアミュージメント」として認定しています。2015年度は「シンクロニカ」など、新たに10機種を認定し、累計32機種となりました。

認定製品「シンクロニカ」



「エコドライブ活動コンクール」にて優秀賞を受賞

バンダイロジバルおよびロジバルエクスプレスは、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団主催の「2015年度 エコドライブ活動コンクール」に参加し、優秀賞を受賞した船橋営業所を含め、参加した計11の営業所すべてが賞を受賞しました。バンダイロジバルおよびロジバルエクスプレスは、同コンクールへの初参加以来、連続受賞を果たしており、その実績から、各地で事例紹介等の講演を行うなど、エコドライブ活動普及のためのサポートを行っています。



授賞式の様子

CSR重要項目 ③ コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー

SBU	重点取り組みテーマ	進捗状況	2015年度活動報告
トイホビー SBU	コンテンツ・商品における倫理表現の統制		<ul style="list-style-type: none"> + 倫理に関する各研修の実施。 ⇒ 新人研修のほか、バンダイ5事業部の社員や協力メーカー向けにも研修を実施 + 商品における倫理観、他社事例や社内事例を蓄積し、倫理判断基準の随時見直しを実施。 + グループ倫理座談会を年2回実施し、倫理判断事例を共有。
ネットワークエンターテインメント SBU (コンテンツ)	適切な倫理表現への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> + ネットワークエンターテインメントSBU各社共通のCSR重点取り組みテーマとして「コンテンツの適切な表現の管理」を掲げ、取り組みを推進。 ⇒ SBU内で倫理表現の情報共有を目的とした分科会を実施し、倫理表現の最新情報を共有 ⇒ 社員向け説明会開催、メールマガジン配信等、倫理表現に関する社員向け教育を実施 ⇒ 倫理表現に関する専用窓口設置
映像音楽プロデュースSBU	表現や用語における倫理チェック		<ul style="list-style-type: none"> + 倫理的表現について、2部門による多重チェックを実施。 + 倫理や表現（差別用語・放送禁止用語・歴史問題・地域問題）に関する社内研修の実施および社外研修への参加。

TOPICS ③ コンテンツや商品の表現における社会への影響とポリシー

倫理表現に関する研修の適時実施および情報の集積・共有

各SBUにおいて、倫理表現に関する各種研修を実施するとともに、さまざまな事例や最新情報を集積し、適切な表現のもと商品・サービスの提供が行えるよう、社内共有を推進しました。



研修の様子

CSR重要項目 ④ サプライチェーン管理

SBU	重点取り組みテーマ	進捗状況	2015年度活動報告
トイホビー SBU	労働規範監査 (BFA監査)		<ul style="list-style-type: none"> + バンダイ商品を生産する海外最終梱包工場すべてに対して監査を実施。 ⇒ 累計169社実施 + キャラクター情報規制がある版權元の商品を生産する工場のサプライチェーン管理強化。 + 東京、深圳、上海の3会場でサプライヤーカンファレンスを実施。
ネットワークエンターテインメント SBU (コンテンツ)	国内外における適切なサプライチェーン管理		<ul style="list-style-type: none"> + 国内外サプライヤー向け説明会を開催。 + 国内外の最終アッセンブリー工場を対象に、製品含有化学物質管理システム、品質マネジメントシステム、就労環境等に関する工場監査を実施。 + 取引先との効率的な情報共有を目的にサプライヤー専用サイトを設け、最新情報を適時発信。
映像音楽プロデュースSBU	サプライチェーン管理の実施		<ul style="list-style-type: none"> + 工場監査強化のため、工場監査チェックリストを作成。
関連事業会社 (バンダイロジカル・ロジカルエクスプレス)	一貫物流サービスの展開		<ul style="list-style-type: none"> + AEO通関業者資格を維持。 + プライバシーマークを維持。 + 海外において新規サービスを9件展開。
関連事業会社 (アートプレスト)	生産現場における安全・安心		<ul style="list-style-type: none"> + 工場内の環境整備を継続。 ⇒ 工場監査を年4回実施 + 新規商材について社内におけるデザインレビューを強化し、不備発生を未然に防止。

TOPICS ④ サプライチェーン管理

工場監査・各種審査の実施

バンダイナムコエンターテインメント (BNE) では、国内外の取引先工場において、「製品に含有する化学物質の管理体制とその運用の有効性」、「品質マネジメントシステム」、「工場ラインの生産管理体制」、「就労環境」等の確認項目について監査を行う「BNE サプライヤ監査」を実施しました。

また、バンダイでは、バンダイ製品を生産するすべての海外最終梱包工場にて、「新規工場監査」と「COC」監査を一元化した「BANDAI Factory Audit」(BFA)を実施しました。

*COC : Code of Conduct (行動規範)



サプライヤーとの取り組み強化

バンダイ、バンダイナムコエンターテインメント、パンプレストでは、それぞれサプライヤーとのカンファレンスの実施や、取引先専用サイトを設けて基準改定などの最新情報を発信するなど、取引先とともに法令遵守、環境配慮に取り組んでいます。



サプライヤーカンファレンスの開催 (バンダイ)



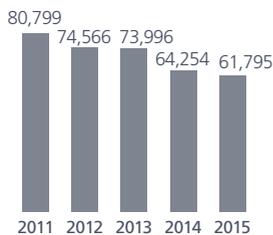
取引先専用サイト (バンダイナムコエンターテインメント)

Environment

環境関連情報

バンダイナムコグループ CO₂排出量の推移

(tCO₂)



(年度)

バンダイナムコグループでは、各SBUにおいて、年度ごとに削減目標を設定し、CO₂排出量の削減に努めています。結果、2015年度も前年度に比べ、削減することができました。

+ 環境マネジメント対象範囲

バンダイナムコグループ全社

+ 環境パフォーマンスデータ収集範囲

持分法適用会社を除く連結対象会社

+ 管理基準

総排出量

注：バンダイナムコグループでは、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき、右記一覧の*印の項目についてCO₂排出量を算定しています。

2015年度環境パフォーマンスデータ一覧

測定項目			単位
燃料	揮発油 (ガソリン)	営業車使用分	ℓ
		上記以外*	ℓ
	灯油*		ℓ
	軽油	営業車使用分(ディーゼル車)	ℓ
		上記以外*	ℓ
	A重油*		ℓ
	石油ガス	液化石油ガス(LPG)	営業車使用分以外*
可燃性 天然ガス	その他可燃性 天然ガス	営業車使用分	m ³
		上記以外*	m ³
水	用水使用量		m ³
	温泉水汲み上げ量		m ³
	排水量		m ³
電気*			kWh
その他の 燃料	都市ガス*		m ³
	蒸気(産業用)*		GJ
	蒸気(産業用除く)*		GJ
	温水*		GJ
		冷水*	GJ
廃棄物	一般廃棄物		kg
	産業廃棄物		kg
	リサイクル量		kg
コピー用紙			kg

(参考)

バンダイナムコ ホールディングス	トイホビー SBU	ネットワーク エンターテイン メントSBU	映像音楽 プロデュース SBU	関連事業会社	2015年度合計	2014年度合計
0	88,408	29,302	27,610	79,271	224,591	234,025
0	0	10	0	1,731	1,741	1,770
0	0	137,100	0	4,870	141,970	9,395
0	54,352	0	0	716,455	770,807	831,573
0	0	0	0	20	20	50
0	4,460	0	0	0	4,460	2,850
0	156	10	0	9	175	131
0	0	0	0	29,051	29,051	29,082
0	0	0	0	0	0	9,453
8,050	286,176	91,120	4,198	6,093	395,638	206,242
0	0	0	0	0	0	0
5,230	286,393	85,520	3,648	6,057	386,848	194,571
1,590,446	20,909,694	98,562,031	1,356,220	4,869,035	127,287,426	132,242,721
131,873	18,969	873,401	0	471	1,024,714	1,146,569
0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0
0	56	218	0	0	274	3,421
0	254	2,762	0	0	3,015	2,874
1,781	421,723	923,595	128,575	99,727	1,575,401	1,676,831
1,844	611,867	255,203	131,220	143,790	1,143,923	2,526,123
4,249	856,112	178,986	15,649	2,977	1,057,974	1,290,827
658	58,165	51,964	25,137	39,988	175,912	163,116

人事関連情報 各SBU主幹会社計

注：セグメント区分の変更に伴い、2015年度（2016年3月期）からSBU主幹会社の一部変更となりました。

2012年度～2014年度：バンダイ、バンダイナムコゲームス、ナムコ

2015年度：バンダイ、バンダイナムコエンターテインメント*、バンダイビジュアル

* バンダイナムコゲームスは、2015年4月にバンダイナムコエンターテインメントに社名変更しました。

雇用形態別従業員数

(名)

		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
正社員	男性	1,972	1,861	1,821	1,445
	女性	614	580	583	598
準社員	男性	1,039	1,043	859	35
	女性	669	768	719	114
契約社員	男性	53	37	33	33
	女性	41	45	41	34
臨時雇用者数	男性	453	660	615	38
	女性	464	938	1,027	93
合計	男性	3,517	3,601	3,328	1,551
	女性	1,788	2,331	2,370	839
合計		5,305	5,932	5,698	2,390

女性管理職数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
女性管理職数(名)	60	61	65	81
全管理者数に占める割合	9.2%	9.3%	9.8%	13.4%

新卒採用数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
新卒採用数(名)	52	58	83	82
うち女性採用数(名)	26	25	38	35
女性比率	50.0%	43.1%	45.8%	42.7%

障がい者雇用率(グループ全体)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
障がい者雇用率	1.83%	1.96%	2.00%	2.00%

平均データ

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
平均勤続年数(年)	9.5	10.6	10.3	12.3
平均年齢(歳)	39.4	39.6	39.5	38.8

育児・介護休業取得者数

(名)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
育児休業取得者数	107	93	88	70
うち男性	8	7	8	5
介護休職取得者数	1	0	0	0
うち男性	0	0	0	0

年次有給休暇取得率

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
年次有給休暇取得率	53.3%	52.6%	49.2%	65.4%

労災件数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
労災件数 (件)	47	50	38	17

ワークライフバランス実現のための制度一覧

(法定以上のもの)

名称	概要
育児休業	1歳6ヵ月に達する年の3月31日まで、または満2歳に達する日まで取得可能
育児援助措置	小学校3年生終了まで、時短勤務や時間外労働・深夜労働の免除が利用可能
妻出産休暇	男性社員は、妻の出産時に5日間の特別有給休暇を取得可能
フレックスタイム制度	所定労働時間を1日ではなく月で定める
育児フレックスタイム制度	小学校6年生の終了までの子を養育する社員は、所定労働時間を1日ではなく月で定める
ファミリーサポート休暇	1年に最大2日間まで利用可能な休暇(子の入学式、卒園式、一親等内の誕生日、本人結婚記念日など)
キッズルーム設置	小学生の子どもが長期休暇中(夏休みなど)に1人で居場所がない場合に、社内待機できる部屋を確保
出産・子育て支援金の支給など	第一子、第二子の誕生時に、それぞれ20万円支給 第三子以降の誕生時に、子1人あたり200万円支給 (支給には、連続した1週間以上の育児休業取得が要件)

注：各社によって導入している制度は異なります。

コーポレート・ガバナンス

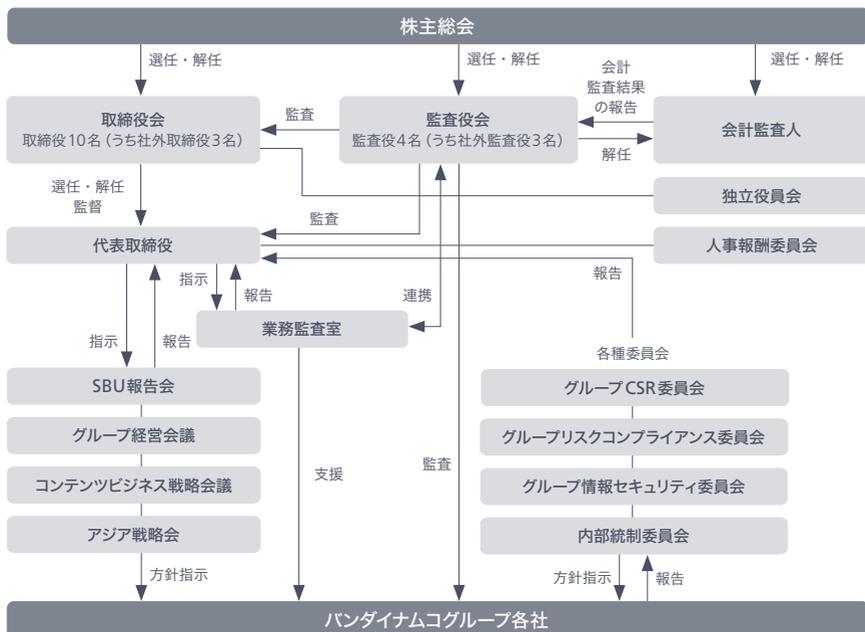
+ 方針・考え方

バンドダイナムコホールディングスは、企業活動を支えるあらゆるステークホルダーの利益を最重視しており、長期的、継続的な企業価値の最大化を実現するうえで、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題であると認識しています。社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指し、経営の健全性・透明性・効率性を高めるとともに、最適な情報開示を可能とするコーポレート・ガバナンス体制を構築していきます。

+ コーポレート・ガバナンス体制

バンドダイナムコホールディングスの取締役会は取締役10名で構成されており、うち3名は社外取締役として、経営の監督機能の強化に努めています。また経営環境の変化に迅速に対応するとともに、取締役の責任をより一層明確化することを目的に、取締役の任期を1年以内としています。

→ コーポレート・ガバナンスの取り組みについての詳細は、バンドダイナムコホールディングスのホームページをご覧ください。(<http://www.bandainamco.co.jp/ir/governance.html>)



2016年6月20日現在

コンプライアンス

+ 方針・考え方

バンダイナムコグループは、「世界で最も期待されるエンターテインメント企業グループ」に求められる、コンプライアンスに関する考え方を明確化し、グループ企業への周知徹底を図っています。すべての国・地域の法律を遵守し、公正な競争のもとで利潤を追求すること、企業活動を通じて広く社会に貢献することが企業の重要な使命であるとの認識に立ち、バンダイナムコグループでは2007年4月に「バンダイナムコグループ コンプライアンス憲章」を制定し、これに基づき「バンダイナムコグループ コンプライアンス宣言」を行いました。

+ コンプライアンス意識の醸成

バンダイナムコグループでは、グループすべての役員および社員が業務遂行において遵守すべき8項目を掲げた「バンダイナムコグループ コンプライアンス憲章」を制定するとともに、同憲章をグループ全社で日々実践するため、その手引書となる「バンダイナムコグループ コンプライアンスBOOK」を作成し、グループすべての役員および社員に配布しています。

2015年度は、グループの役員・社員を対象に、コンプライアンスに関するeラーニングを4回、コンプライアンスに対する意識調査を1回実施し、延べ約20,000名が受講しました。また、グループ各社において、各項目に特化した独自のコンプライアンス研修を実施しました。今後も、コンプライアンス意識の醸成とコンプライアンス体制のさらなる強化のため、定期的を実施していきます。

+ リスクマネジメント

バンダイナムコグループでは、健全な事業活動の継続におけるリスクマネジメントの重要性を認識し、グループリスクコンプライアンス規程を制定し、役員、社員一人ひとりが危機発生時に取るべき行動の指針を示しています。また、バンダイナムコホールディングス社長を委員長とするグループリスクコンプライアンス委員会を設置し、リスクの把握、該当危機発生時の未然防止に努めるとともに、危機発生時に迅速な対応がとれる体制の整備に努めています。さらに、グループ各社において法令違反が発生したことが確認された場合には、グループリスクコンプライアンス規程に基づき、各社のコンプライアンス委員会からグループリスクコンプライアンス委員会に報告を行います。

今後も、社会の動向などを的確に把握し、企業経営をめぐる多様なリスクに迅速・適切に対応できるよう、リスクマネジメント体制の強化を図っていきます。

Governance

リスクマネジメントと情報開示

コンプライアンス

+ 内部通報制度の整備・運用

バンダイナムコグループ各社では、それぞれ社内規程を制定し内部通報制度を整備・運用しています。社員が法令違反を発見した場合、上司に相談するか、あるいは内部通報制度（ホットライン）を通じて代表取締役、社外顧問弁護士、社内相談窓口、監査役のいずれかに報告することを規定しています。公益通報者保護法などにに基づき、通報を行ったことにより不利益を受けることがないように対応を図っています。内部通報制度により、法令違反の発生が明らかになった場合、各社のコンプライアンス規程に基づき、事案に応じて適切な対応を行います。

バンダイナムコグループのBCP（事業継続計画）

バンダイナムコグループでは、重大な災害や事故などの発生に備え、グループのBCP（事業継続計画）の基本方針を制定するとともに、BCM（事業継続マネジメント）体制の整備に取り組んでいます。eラーニングによる社員教育などにも着手し、お客様の安全確保や、早期に事業の再開ができるよう、対策を行っています。

情報開示

バンダイナムコグループでは、経営の透明性を高めるため、さまざまな形で経営に関する情報を開示しています。

+ 決算説明会の開催

決算発表後に、機関投資家や証券アナリストを対象に、決算説明会を開催しており、中期計画などについても説明しています。また、バンダイナムコホールディングスのホームページにて、発表内容の動画配信や当日の配布資料、質疑応答に関する書類がダウンロードできるようになっています。



IR・投資家情報はこちら

→ <http://www.bandainamco.co.jp/ir/index.html>

+ 株主総会の開催

バンダイナムコホールディングスでは、株主総会を決議の場としてだけでなく、株主の皆様と対話ができる場ととらえ、積極的なコミュニケーションを心がけています。株主総会終了後には取締役が株主の皆様と対話するための時間を設けるとともに、商品・サービスの展示などを行っています。



Corporate

グループ組織体制

バンダイナムコグループは、純粋持株会社であるバンダイナムコホールディングスのもと、3つの「戦略ビジネスユニット (SBU : Strategic Business Units)」と各SBUをサポートする関連事業会社から構成されています。事業会社の集合体であるSBUが、国内外における事業戦略を策定・実行し、多彩なエンターテインメントを人々に提供しています。

戦略ビジネスユニット (SBU)



バンダイナムコホールディングス

トイホビー

TOYS AND HOBBY

(主幹会社：バンダイ)

- + 玩具、菓子・食品、自動販売機用商品、カード、模型、アパレル、生活用品、文具などの製造・販売

ネットワークエンターテインメント

NETWORK ENTERTAINMENT

(主幹会社：バンダイナムコエンターテインメント)

- + ネットワークコンテンツの企画・開発・配信、家庭用ゲームソフト、業務用ゲーム機、アミューズメント機器向け景品などの企画・開発・販売、アミューズメント施設などの企画・運営

映像音楽プロデュース

VISUAL AND MUSIC PRODUCTION

(主幹会社：バンダイビジュアル)

- + アニメーションの企画・制作・プロデュース、映像・音楽ソフトの企画・制作・販売、オンデマンド映像の配信、ライブエンターテインメント事業

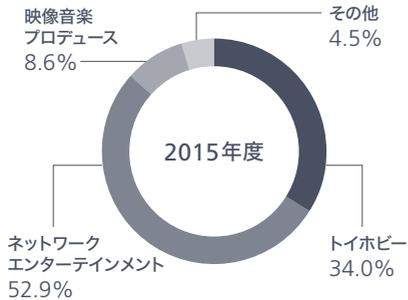
関連事業会社

AFFILIATED BUSINESS COMPANIES

- + 流通・物流、管理業務など各SBUをサポートする事業

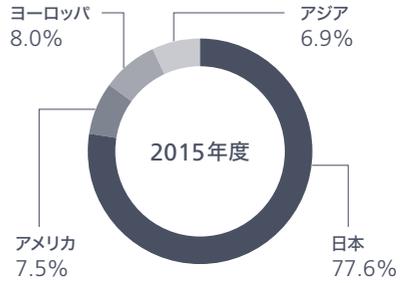
財務・業績ハイライト

事業の種類別売上高比率



注1：内部取引の消去前の売上高で計算しています。

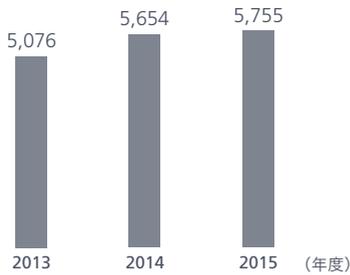
ご参考：所在地別売上高比率



注1：管理数値をベースとした概算値です。
注2：外部顧客に対する売上高で計算しています。

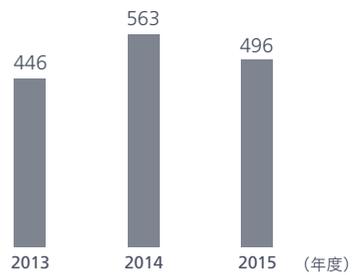
売上高

(億円)



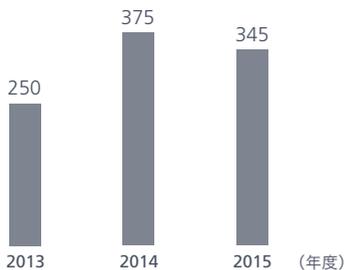
営業利益

(億円)



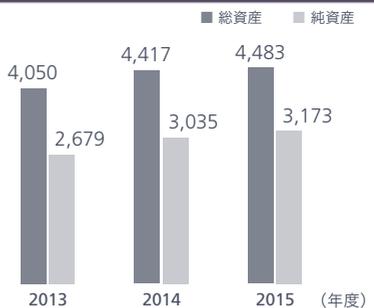
親会社株主に帰属する当期純利益

(億円)



総資産・純資産

(億円)



会社概要 (2016年3月31日現在)

+ 社名

株式会社バンダイナムコホールディングス
BANDAI NAMCO Holdings Inc.

+ 本店所在地

〒108-0014
東京都港区芝5-37-8
バンダイナムコ未来研究所

+ 資本金

100億円

+ 事業内容

バンダイナムコグループの中長期経営戦略の
立案・遂行

グループ会社の事業戦略実行支援・
事業活動の管理

+ グループ社員数

7,391名

+ 連結対象会社数

子会社68社
持分法適用会社6社

編集方針

「Fun For the Future! バンダイナムコグループのCSR活動報告2016」は、グループ全体のCSR(企業の社会的責任)に関する取り組みを、ステークホルダーの皆様にわかりやすく報告することを目指して発行しています。「バンダイナムコグループCSR重要項目」をもとに、各戦略ビジネスユニット(SBU)で策定している取り組みテーマの中から参考にしたガイドライン: GRI (Global Reporting Initiative)

代表的な取り組みを中心に報告する冊子版と、より詳細な活動報告・情報開示を目的としたWEB版で構成しています。

対象期間

2015年度(2015年4月1日~2016年3月31日)

対象範囲

持分法適用会社を除く連結対象会社

Information

CSR活動報告2016 WEB版のご案内

冊子の報告内容に加えて、社会・環境の側面に関する具体的な取り組みについて詳しく報告しています。

+ WEB版

活動内容の詳細報告

<http://www.bandainamco.co.jp/social/index.html>



WEB CONTENTS

+ グループのCSR活動

- バンダイナムコグループのCSR
- 重要項目について
- コーポレート・ガバナンス
- コンプライアンス
- 環境とともに

+ 各SBUの取り組み

- お客様とともに
- 地域社会とともに
- 環境とともに
- 社員とともに

+ 冊子版

主な取り組みテーマの特集



株式会社バンダイナムコホールディングス

URL: www.bandainamco.co.jp/

発行日 2016年8月 (前回2015年8月)

